

臨時理事会（令和3年8月17日開催）で、大学王座開催についての議論内容の抜粋

【臨時理事会出席者一覧】※敬称略

〈オブザーバー〉9名

関東連盟会長	山口	壮	関西連盟会長	佐藤	征治
和歌山県連盟理事長	遠藤	富士雄	和歌山県連盟副理事長	大石	歩
和歌山県事務局長	木村	雅紀	芦屋大学監督	樋山	茂
日本連盟事務局長	豊田	友彦	日連マネージャー	富岡	誠
日本連盟事務局	及川	雄太			

〈日本連盟役員〉22名（欠席1名） 計21名

会 長	内田	貞信	副 会 長	坂巻	義男
専 務 理 事	仲間	達也	専務理事補佐	井崎	洋志
専務理事補佐	関口	孝	理 事	中村	司
理 事	池端	敬介	理 事	木庭	浩一
理 事	佐藤	義裕	理 事	林田	豊
理 事	大政	邦弘	理 事	安川	浩樹
理 事	後藤	知里	理 事	小坂	則夫
理 事	浅村	雅則	理 事	小山田	裕二
理 事	山本	保義	理 事	石橋	勇
理 事	吉沼	茂	理 事	中島	成雄
理 事	菊池	浩吉			

〈監 事〉2名（欠席1名） 計1名

監 事 泉 重樹

合計 31名

〈議論内容の記録(後日 HP 発表になる公式議事録はもう少し簡略化した記載になります)〉

※敬称略

内田：こんばんは。急な召集となりましたが、大学王座の重要な話なのでよろしくお願ひします。

内田：議長は、坂巻副会長にお願いします。

議長：議事録署名人を会長・泉監事に願ひします。議事録は池端理事・大政理事に願ひします。

議長：議案は大学王座となります。この内容は仲間専務理事でよろしいか。

仲間：では、議題の説明をします。

(小山田理事より一言言わせてほしいと要請あり)

小山田：皆様、こんばんは。本日、駒澤大学ボクシング部に新型コロナウイルス感染者が出てしましまして、皆様には大変ご迷惑をおかけします。また、8月21日予定されていた大学王座決定戦が直前で辞退となってしまったことを大変申し訳なく、深くお詫びを申し上げます。このようなことで緊急に理事会を開くことになりましたが、どうぞ、よろしく願いいたします。

仲間：ただいま、小山田監督からご説明がありましたが、おそらくUJ王座は実施される形になるとは思いますが、そこも含めて扱いをどうするのか議論して議決をしたいと考えます。現状の報告をいただき、両大学の監督からの意見をお聞きした上で議論することがいいのかなと考えております。以上です。

議長：ありがとうございます。それでは芦屋大学からご意見をお願いします。

樋山：先ほど、小山田監督からお話を聞きましたが、私がこの事実を知ったのは昨日です(16日)ですから正直、驚いています。同じ指導者という立場から気持ちはわかります。ただし、芦屋大学に報告しても何故話し合いが必要なのか、健診計量を通過して初めて試合ができるのではないかと言われました。ですから、何故話し合いが必要なのか疑問です。

遠藤：関西連盟が受けた話だったわけですが、関西では対応できないということで面子を考えて和歌山県連盟が引き受けた経緯があります。もし、延期をされた場合には和歌山県での試合は不可能です。理由は、2試合分の費用がかかります。大学王座が延期になって和歌山県での試合では、別途費用がかかることでお受けする状況ではございません。延期であった場合には関東で実施していただきたいと思います。少なくとも約束は守らせていただいていたと思っています。UJ王座についてはしっかりと準備をしておりますのでやらせていただきたいと思ひますし、喜んで歓迎を申し上げる次第です。

仲間：現実的な話と心情的な話は難しいのですが、福井のインターハイでも陽性者が出てチームごと棄権した経緯もありました。基本的には、試合の期日までに準備ができなければ棄権する形にはなるのでだと思います。それは、皆様も理解していただいていると思います。開催地のお考えとしても、ここまで準備はしました。出場できないから延期では対応できないというのも、もっともな意見であろうと思います。今回、小山田理事が文書で延期の依頼をしてきたのは指導者としての思いを物理的に答えられるか、それらのことを踏まえて話し合うこととなっていると思います。心情的には何らかの試合をさせてあげたいということも含めて議論する場であると思うので皆様のお考えを聞かせていただきたいので、理事の方々、その他のオブザーバーの方々の意見を聞かせていただきたいと思ひます。以上です。

中島：どうも、皆様にはご迷惑をおかけしております。専務理事からも話がありますが、通

常のなら大会ならと話をお伺いしましたけれども、コロナという状況に対して不祥事があったわけではないのですよね。こういったことに対して、はい。だめだというようなものではないし、インターハイのことも話は来ていますが、山があってトーナメントの相手に迷惑をかける話ではない。今回の場合は、関東と関西において代表が決まっているわけですよね。決まっていればですが、8月21日を目標に計画を立ててきた。最後の最後でこのようなことになった。コロナという問題と一般的にはという問題を私はどういう判断をするかわかりませんが、今日は宮崎商業の野球の話がありました。これは山が始まる前だから、どこかで試合をしてあげたらいいんじゃないでしょうか。これは優勝校の話ではないわけですよね。では、これに関して当てはめたらどうなのだろう。関東・関西が出そろっていて、この日程に合わないとしても雌雄を決しましょうということであれば、芦屋のリングか駒澤のリングでも、また費用は駒澤が負担しましょう、などと整理すればですね。それを日本連盟が王座決定戦に認定しましょうとなれば、または練習試合にきなさいと言われれば練習試合になるかもしれませんが、アスリートファーストと日本連盟が話しているながら、どうするのか。関東連盟として大学を預かっており、樋山さんが言っていたようになるのであれば、関東連盟として認めるわけにはいきません。これはキチンと王座同士で戦う話で、日本連盟がいやいや中島、これはやるわけにないかないよと言われれば従うより仕方ありません。子供たちのため学生たちのために、コロナという状況にある中で、最後の最後にこの状況になってしまいました。場所と会場とかの話ではなくて、樋山さん戦いましょうという話になれば、日本連盟が主催のゲームですから、日本連盟が認めてくれなければ費用負担はこちらでしますから、日本連盟が認めてくれればありがたいし、子供たちのためになるのではないかと私は思います。以上です。

安川：私もほぼ中島さんと同じ意見ですが、インターハイは不特定多数に感染が広がる懸念があったかと思いますが、今回は団体戦ということと当事者同士の合意があれば違う形で開催しても差し支えはないかと考えます。以上です。

中村：この話が出て、思ったのは芦屋大学の学生がどのような気持ちなのかが大切で、おそらく、延期して再度やらなくてはならないのかと感ずるのではないかと思います。延期してもやる気があるのかが基本ではないでしょうか。

佐藤：当事者間での話し合いなら納得できるが、ただし、駒澤大学の現状復帰がいつまでにできるか、芦屋大学の体調や今後の就職活動などを考える必要があるのか、当事者（両大学）が腹を割って話し合う必要があると思います。

菊池：スポンサーがUJ王座と全日本大学王座を一緒にやる計画で支出したのであれば支障があるのではないのでしょうか。

遠藤：なかなか苦しいところで企業に対しても申しわけなく思っているところです。しかし、中島会長がおっしゃったとおり、不祥事だったわけではないので、UJ大会の応援をお願いする予定です。

佐藤：通常の大会であれば棄権、しかし、コロナ禍であるので検討する話になっているが、これは芦屋大学が受けるか受けないかの話だと思います。ここが大前提であると思います。芦屋大学がコンディショニング等を考えて延期した場合には、日本連盟が仲介して日程を調整すればいいと思います。それが私の考えです。

内田：私の意見として、大学は試合が少ないのでできるだけ試合をさせてあげたいと思いますが、これは競技なので体調を管理して、その日に健診計量をすることでリングに立つわけで、どんなに強い選手であっても体重オーバーでも風邪をひいても出られないことを考えれば、コロナも病気の一つを考えれば延期はない。ボクシング競技という観点で言えば、延期はないと考えております。体調を整えてリングに上がっていただくと考えるなら、延期はないと思います。体調を整えてリングに上がるのがボクシング競技です。

樋山：私も心苦しいのです。選手も戦っていない中で勝ったとしても喜んでないと思います。でも、まだ現時点で選手には伝えておりません。まだ言えませんので。明日は3日前です。このような状況で皆さんも考えていただけますか。もし、コロナ禍の中でブロック大会でも何でも感染したら試合を延期していただけますか。できないですよね。団体戦だからと言われますけど、この日に試合をすると決まっています。同じ扱いではないでしょうか。私の大学でも指導している中で、私の大学で起これば、辞退します。駒澤大学には気の毒だが、私は、そのつもりで毎日の体調管理も指導してきました。毎日、3回体温チェックしています。インターハイも1日しか観に行けていない。駒澤も気を付けていたと思うが視察に2名行かれていました。私は1人残して選手の管理をしていました。駒澤大学も管理していたと思います。駒澤を非難しているわけではない。どこでも起こりえることだが私たちはその中で注意してしっかり準備をしてきたというのが現実です。選手にどのように伝えていいか悩んでいる。その点は解ってもらいたい。

後藤：選手のことを思うと試合をすることがいいとは思いますが、やはり大会ですので辞退することは仕方がないと思います。ただ、選手のことを思うと、選手のために代替大会をするなど、可能な選手だけでも試合をさせてあげると良いのではないかと思います。

内田：今回は、残念ですが駒澤大学の辞退をしていただきたいと思います。よろしいですか。

小山田：関東のサッカーでは、コロナ感染があったが試合を延期しております。一つの意見として聞いてもらいたい。コロナの現実を考えると、延期という判断もあると思います。

中島：専務理事にお伺いしたいんですが、大学王座の要項を見たことがないんですが、コロナ感染の際のことの記載があるか、または同じような事態で試合ができない場合に延期するなどのことが記載されているのかわかりますか。

仲間：私も要項を見たことはないが、通常の試合として考えると試合に出られる状況にない場合は、棄権するというのが全員の認識だと思います。体調不良や親戚の不幸や航空機の遅延であっても健診計量の場にいなければ棄権の扱いになるというのは共通認識だと思います。

中村：大学の要項は見ておりませんが、そのような記載はないと思います。

山口：東京のコロナ感染状況は異常な状態です。感染は、濃厚接触でなくても、または接触の覚えが無くても感染しているような状況もある中、今後は我々も考えを変えていく必要があると思いますが、今回のことを考えると、専務理事がおっしゃったルールと後藤理事がおっしゃった心情、そして現状の3つを踏まえる必要があると思います。しかし、いまだかつて、試合会場を移転する話はなかったと思います。ただ、心情という部分では各大学や選手の意見を聞かなくてはわからないので大事なところかなと思います。タイトルマッチでは、どうでしたか中島会長。

中島：プロは延期ですね。挑戦者側にはペナルティーはないと思うが、チャンピオンに非がある場合はタイトルの剥奪があると思いますね。

山口：参考までに聞かせてもらいました。結局は、芦屋大学の樋山先生と選手の皆様がどう受け取るかではないでしょうか。たくさんの選手が延期してでも戦いたいというならば、延期はありだと思いますが、ルールに基づいて両校の意見をすり合わせて決めるべきだと思います。

会長：選手は体調を整えてリングに上がると考えるのが普通ではないでしょうか。延期している間に芦屋大学に感染者が出た場合はどうなりますか。いつ、どこで、どんな状況になるかわからないので、今回は駒澤大学の辞退が妥当だと考えます。日本連盟としてはルールを変えてはいけないと思います。選手ファーストとは、体調を整えて出てきた選手を大切にすることも選手ファーストです。両方が選手です。これはルールを順守したいと思います。

石橋：会長がわかるんですが、かなり厳しい意見だなという印象です。大学というのは教育機関で、文科省からコロナ感染に関しては「なるべく配慮してくれ」と依頼が来ています。小山田さんのように大学では延期して試合をさせてやるというようにしています。一律、幼年から全日本の選手まですべての大会を「こうだと」決めるのではなく、意見交換をする中、決めるのが一番いいのではないかと思います。ボクシングというものを「こうだ」と決めると大学のような教育機関だとそぐわないと思います。

樋山：ボクシング競技のルールは健診計量に合格して初めて試合に出られるんじゃないですか。それがルールでしょ。それを言い出したら、きりがありません。石橋さんが言いましたが、私も大学です。大学も厳しいですよ。厳しいようですけどルールですよ。

仲間：ルールのことや現状のことを協議して決めることは意義があると思います。小山田監督から嘆願書が出ていたので協議をしてこのようになりましたということが大切。話し合っているこのプロセスが大切です。今日の会議は意義があると思います。

中島：延期してくださいという話ではない。さっきから延期、延期と話が出ているが辞退しているのです。現時点でね。しかし、コロナという特別な事態をみて調整することはできないでしょうかという話で、会長が辞退してくださいと言っているが、我々はもう辞退しているわけですよ。そこを子供たちのために2校で話し合いをして日本連盟さん、どうですかという発想のものでありますから、だめだとか日本連盟が決める話じゃない。もう、辞退しているわけですから、それを言っているんじゃない、コロナ禍ということで、今までになかったことで急に入ってきている。先ほど樋山さんが言っているように駒澤もやっている（感染対策）はずですが、なんとかできませんかということですよ。

内田：十分にわかっています。中島会長から連絡をもらって考えました。樋山先生とも話しました。両校の監督の話聞いて、延期は考えられないと思います。

議長：さきほど、中島さんがおっしゃった辞退をしているということであれば、延期でもなく棄権ということで、納得していただけているという話しですね。

仲間：それは大学王座ということではなく、日本連盟が主催でもなくなります。公式か非公式かに大学同士で対戦することは自由であり、ここで議論することではないと思います。現状で辞退しているということであれば、ここで議論の必要はないと考えます。試合当日に芦屋大学が健診計量に合格した時点で芦屋大学の優勝が決まるということだと思います。

議長：専務理事がおっしゃったことだと思いますので、今後のことは大学同士で話し合っただけでよろしいかと思います。この件に関してはよろしいかと思いますので次に行きたいと思います。

中村：終わり方がはっきりしないんですが、駒澤大学が辞退ということでしょうか。

議長：そうです。芦屋大学が健診計量で合格したら優勝となります。

中村：ということは、今年度の優勝は芦屋大学の優勝ですか。

小山田：専務からLINEで辞退届を出されたのですかと聞かれたのですが、辞退をしなければならぬ状態であることを届けたものです。ただ、先ほども中島の方から話したように他の競技でも公式戦を延期して成立をさせているところもあるわけです。樋山先生も石橋先生も大学関係者ですが、コロナ禍の状況を踏まえて試合をずらせないでしょうかとお願いをしたところです。ルールがあるのはわかっています。私も馬鹿じゃありませんからしっかり認識をしております。感染対策は芦屋大学同様に駒澤大学もしてはいたのですが、コロナ感染拡大の状況の中、感染してしまいましたので、ワンマッチですので、柔軟に対応できるのではないかと思います。最後の一文に入れさせていただいたわけですよ。ルールからいうと難しいということもわかりますが、他の競技でも柔軟な対応をしていることを考えると、皆さんで協議していただくのではないかと思いますので文書を発出させていただいたのですが、現状でも選手と話もできていないし、最初に感染が分かった人間は責任を感じていると思いますし、感染経

路もわかりません。心情的な部分で議論するのもどうなのかと思いますが、選手も頑張っていました。話がとりとめのない内容になってしまって申し訳ないのですが、私からは以上です。

菊池：今、文書を見せていただいたのですが、この内容は辞退ではないと思います。辞退をしなければならない状況であるけれども、延期のお願いをしたいという内容なので、辞退であれば議論の必要もないわけで、最初から勝敗が決まってしまったということですが、この文書を見てみると延期をしていただけないでしょうかという内容であることから、それだと議決が必要になってくると思います。中島さんから辞退とおっしゃったのですが、辞退するとは書いていないと思いますから延期のお願いであれば議決が必要だと思います。

中村：選手ファーストのスタンスは同じですが、芦屋大学の選手にとっては延期になったとするとどうなるのか、厳しいのではないかと思います。駒澤大学の辞退になるのではないかと思います。

小山田：先ほど、辞退という文書が読み取れないとあったのですが、あの文書は辞退です。これ以上議論する必要はないと思います。辞退でルール通り進めてもらえばいいと思います。

中島：小山田監督、この文書の「延期をお願いします」というところを抜いてね。辞退するという文に直して、明日の朝早々に会長あてに出すようにしてください。小山田監督。辞退届に直して会長あてに出してください。辞退しているのですから、明日出してください。

議長：では、この件に関しては辞退ということで終了します。

・・・この後は他の議事であったため、大学王座の件は終了しました・・・

結論として、議論の後半に、駒澤大学ボクシング部監督の小山田氏、および総監督の中島氏からの辞退の意が確認できたため、臨時理事会による議決を必要としなかったため、全日本大学王座は実施して、駒澤大学の辞退となりましたので、ご報告いたします。

以上